

## 別紙11「転倒防止基準書」

移設什器の据付にあたって、収納庫や棚類等には転倒防止策を施すこと。以下に転倒防止措置が必要な主な什器種類の転倒防止基準を示す。


なお、新庁舎の仕上げの都合等で、以下基準に定める方法以外の固定方法を行いたい場合は、事前に固定の場所と方法等についての計画を委託者及び移転PMへ提出し、承認を得た上で対処すること。

また、合わせて安全性等について十分な説明を行うこと



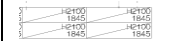
### 【主な什器種類の転倒防止基準】

	レイアウト		連結・固定による主な転倒防止対策 (○：必要 ×：不要 △：条件により必要)						特記（固定方法など）
	配置のタイプ		上下連結	横連結	背面連結	壁固定	床固定	天つなぎ	
<div>ハイキャビネット</div> <div></div>	壁前		○	○	-	○	×	-	※上下・横連結は本体のハーフパンチ箇所を連結ビスにより固定すること ※壁固定とその箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・上下連結は収納庫内部の前部2か所・後部2か所とする ・横連結は収納庫の内部上部2か所・下部2か所とする ・連結パターンの両端部の壁固定は必須 ・両端部と2連に1箇所毎の壁固定を行うこと ・壁固定の相手は、LGSスタッド部またはスチールパーティションのスタッド部（柱材）とする ・上記5点により床固定不要（上部で適正な固定を施す事により転倒リスクが軽減できる為）
	中間 ダブル (背合わせ)		○	○	○	-	×	○	※天つなぎ材使用とその固定箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・上下連結は収納庫内部の前部2か所・後部2か所とする ・横連結は収納庫の内部上部2か所・下部2か所とする ・背面連結は収納庫の内部上部2か所・下部2か所とする ・中間ダブル配置の場合は、上下連結と横・背面連結に加え、天つなぎ材（C型チャンネル□40mm程度のもの）にて、両端と2連毎に固定をする ・上記4点により転倒リスクを軽減できる為、床固定不要と判断する
<div>ローキャビネット</div> <div></div>	壁前		-	○	-	△	×	-	※壁固定とその箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・横連結は収納庫の内部上部2か所・下部2か所とする ・ラテラル収納庫は3連結につき2か所の壁固定を基本とする ・△：壁固定の相手は、LGSスタッド部またはスチールパーティションのスタッド部（柱材）とする ・上記3点により床固定不要
	中間 ダブル (背合わせ)		-	○	○	-	△	-	・横連結は収納庫の内部上部2か所・下部2か所とする ・背面連結は収納庫の内部上部2か所・下部2か所とする ・△：3連ダブル以下の配置の場合は床にビス止め等のズレ防止策を施す（M4タッピングビス以上） ・△：4連ダブル以上の配置の場合は床でのズレ防止策は不要（床設置面積が広がり自重も大きくなり、ズレの可能性が低い為）
	中間 シングル (直線1列)		-	○	-	-	△	-	・横連結は収納庫の内部上部2か所・下部2か所とする ・△：部長席の後ろの配置の場合は床でのズレ防止策を施す（M4タッピングビス以上） ・△：デスク島端のキャビネットについてはデスクを固定の相手とする デスクと収納庫の連結用金具を製作し固定すること 連結用金具の図面を作成し、市の承認を得ること（参考別紙：連結金具イメージ図参照のこと） （※デスク島端キャビネットの転倒防止対策はデスク納入側で施すこと）

【主な什器種類の転倒防止基準】

	レイアウト		連結・固定による主な転倒防止対策 (○：必要 ×：不要 △：条件により必要)						特記（固定方法など）
	配置のタイプ		上下連結	横連結	背面連結	壁固定	床固定	天つなぎ	
<b>スライド式収納庫</b> 	壁前		○	○	-	○	○	-	※壁固定箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・前列収納庫の上下連結は収納庫内部の前部2か所・後部2か所とする ・後列収納庫の横連結は収納庫の内部上部2か所・下部2か所とする ・後列収納庫の両端部の壁固定は必須 ・両端部と2連に1箇所毎の壁固定を行うこと ・壁固定の相手は、LGSスタッド部またはスチールパーティションのスタッド部（柱材）とする （床固定の○は、スライド式収納庫の通常の設置方法の意味）
<b>木製書架</b> 	壁前		-	-	-	○	×	-	※壁固定とその箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・連結パターンの両端部の壁固定は必須 ・両端部と2連に1箇所毎の壁固定を行うこと ・壁固定の相手は、LGSスタッド部またはスチールパーティションのスタッド部（柱材）とする ・上記3点により床固定不要
	複式		-	-	-	-	○	○	※床固定及び天つなぎ材使用とその固定箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・H2,000程度の複式書架の場合は、天つなぎ材（C型チャンネル□40mm程度のもの）にて、両端と2連毎に固定をする ・H1,500程度の複式書架の場合は、天つなぎ材は手やアタマが届きやすく邪魔になるため使用しない。また自重によるズレや転倒の可能性は低いが、転倒リスクを軽減するため、床固定を書架1島につき角4箇所に行うこと ・上記床固定の金具は、地板を外して露出しないように固定すること 使用する金具は、M6アンカーボルト、ボルト長30mmにて行うこと
<b>マップケース</b>	壁前・中間		○	○	-	-	-	-	・マップケースは上下連結＋横連結（平プレート金具）にて ・ベース使用の場合は、積重ねは3段までとする （参考：3段分の高さH1245mm＋ベースH95mm＝H1340mmで、一般的に3段を超えると転倒の危険性がある） ・移設品の場合は既存の置き方の設置だとしても、上記同様に固定金具で対処する
<b>更衣ロッカー</b> 	壁前		-	○	-	○	×	-	※壁固定箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・横連結は天部の前部後部2か所を外側から平プレート金具で固定する ・連結パターンの両端部の壁固定は必須 ・両端部と2連に1箇所毎の壁固定を行うこと ・壁固定の相手は、LGSスタッド部またはスチールパーティションのスタッド部（柱材）とする ・上記4点により床固定不要
	中間 ダブル （背合わせ）		-	○	○	-	○	-	・横連結は天部の前部後部2か所を外側から平プレート金具で固定する ・背面連結は天部左右2か所を外側から平プレート金具で固定し、端部は上下2か所を固定する ・中間ダブル配置の場合は、上下連結と横・背面連結に加え、金具により床ズレ止めを行う （H1800程度の高さのため天つなぎ材は手やアタマが届きやすく邪魔になるため） 床ズレ止めは、ロッカー1島につき床面用L金具＋M4タッピングビス以上で6か所とする

【主な什器種類の転倒防止基準】

	レイアウト		連結・固定による主な転倒防止対策 (○：必要 ×：不要 △：条件により必要)						特記（固定方法など）
	配置のタイプ		上下連結	横連結	背面連結	壁固定	床固定	天つなぎ	
<b>倉庫物品ラック</b> 	壁前		-	されている	-	○	×	-	※壁固定箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・連結されたラックの両端部の壁固定は必須 ・両端部と2連に1箇所毎の壁固定を行うこと ・壁固定の相手は、LGSスタッド部またはスチールパーティションのスタッド部（柱材）とする ・上記3点により床固定不要 ・中間ダブル置き of ラックとの天つなぎ材による固定箇所は、レイアウト図面通りとする
	中間 ダブル (背合わせ)		-	されている	○	-	△	○	※天つなぎ材使用とその固定箇所数はオフィス家具メーカーの対策方法より設定した ・背面連結はラック上部の本体内側をボルト・ナットで固定する ・天つなぎ材（C型チャンネル□40mm程度のもの）にて、つなぎ箇所は基本レイアウト図面の通りとする ・△：床に不陸がある場合はレベル調整のため、ラックの下にライナーを使用し不陸を調整するとともにライナーごと床に固定する
<b>【補足事項】</b> 設置場所の床については、直床とOAフロアとがある。その内、主に執務エリアは次の仕様となっている。 OAフロア：センクシア製ウッドコアスチールフロア W S B 500 N S、N C H 200mm 3,000 N									